

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成26年4月)

平成26年4月10日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第16回定期検査中 定検停止期間:H23.8.6~	第15回 H19.5.4 ~ H22.8.4 停止期間 H19.5.4 ~ H22.6.6 (1130日) (原子炉起動H22.5.31)	第16回定期検査による停止												
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第13回定期検査中 定検停止期間:H24.1.25~	第12回 H18.11.24 ~ H23.2.18 停止期間 H18.11.24 ~ H22.11.25 (1463日) (原子炉起動H22.11.18)	第13回定期検査による停止												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H24.3.26~	第9回 H22.10.31 ~ H23.3.9 停止期間 H22.10.31 ~ H23.1.26 (88日) (原子炉起動H23.1.23)	第10回定期検査による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H23.8.23~	第9回 H22.4.18 ~ H22.7.23 停止期間 H22.4.18 ~ H22.6.28 (72日) (原子炉起動H22.6.26)	第10回定期検査による停止												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (3月末現在)

3月	0.0%
25年度累計	0.0%
運転開始後累計	57.3%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (3月末現在)

3月	0
25年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (H25年度第3四半期)

当期発生本数	921
貯蔵庫累積貯蔵本数	31,197
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H25年度第3四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,734
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 従業員登録データ(人) (4月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	854	2,178	56%
	刈羽村	85	187	5%
	その他	119	856	18%
	小計	1,058	3,221	79%
県外		101	1,033	21%
合計		1,159	4,254 (3,611※)	-
		5,413		100%
協力企業社数(社)		733		

※4月1日の協力企業構内入構者数

⑦ 来客情報(人) (3月末現在)

	3月	年度累計
地元	884	9,336
県内	539	7,661
県外	513	10,578
国外	37	371
合計	1,973	27,946

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
4月24日	定例の記者説明会
5月8日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	平成26年 2月6日	4号機	原子炉補機冷却海水系ポンプB号機の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（発生状況） 定期検査中の4号機において、平成26年2月5日に原子炉補機冷却海水系ポンプ予備機起動試験（定例試験）のため、原子炉補機冷却海水系ポンプB号機の起動操作を実施したところ、ポンプが起動しないことを確認しました。 このため状況の確認を行ったところ、同日午後2時10分頃、海水熱交換器建屋地下1階（非管理区域）のB系非常用電気品室において、ポンプに電源供給を行っている電源盤内のしゃ断器に不具合があることを確認しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 現在、当該ポンプは保安規定上の機能要求はなく、安全上の問題はありません。 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 当該しゃ断器を予備のしゃ断器と交換し、正常に復旧しております。 <u>原因調査の結果、しゃ断器を動作させるリンク機構部に塗布している潤滑油が経年により劣化し固くなったため、リンク機構部の動きが悪くなり動作不良に至ったものと推定しました。</u> <u>再発防止対策として、潤滑油が固くならないように注油を行うことに加えて、今後はリンク機構部について計画的に分解点検を実施し、清掃及び潤滑油の塗り替えを行うこととしました。</u></p>
②	平成26年 2月24日	1号機	非常用ディーゼル発電機の動弁注油設備の不具合について（区分Ⅲ）	<p>（発生状況） 平成26年2月21日午後5時53分頃、定期検査中の1号機原子炉建屋地下1階非常用ディーゼル発電機（A）室（非管理区域）において、非常用ディーゼル発電機（A）の点検後の確認試験のため運転を開始した際に、「動弁注油圧力低」警報が発生しました。警報はすみやかにクリアし、非常用ディーゼル発電機の運転状態に異常はなく、機能上の問題がないことを確認しましたが、非常用ディーゼル発電機に付属しているバックアップ用の動弁注油電動ポンプが起動していることを確認しました。 そのため、翌22日に非常用ディーゼル発電機の調査を行った結果、午後2時30分頃、動弁注油設備に何らかの不具合があるものと推定しました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 今回の不具合については、動弁注油設備の軽度な不具合であり、当該非常用ディーゼル発電機の発電機能に影響を与えるものではありません。また、1号機では別の2台の非常用ディーゼル発電機が待機状態であり、プラントの安全上の問題はありません。 今回の不具合による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） <u>動弁注油設備を構成する機関付動弁注油ポンプ、動弁注油電動ポンプ等の設備に、損傷等の異常はありませんでした。</u> <u>今回の不具合は、動弁注油設備の系統圧力を計測する指示計、または圧力が低くなったことを検出する圧カスイッチの点検の際、指示計と圧カスイッチにつながる配管（以下、計装配管）内に通常よりも多く空気が残っていたため、指示計ならびに圧カスイッチへの圧力伝播が緩慢となり、圧力上昇が遅れたことにより、当該警報の発生等に至ったものと推定しました。</u> <u>そのため、当該設備の指示計、または圧カスイッチの点検後に実施する計装配管内の空気抜きをこれまで以上に念に行うこととしました。また、今後、これらの計測器類の設備改良を図り、空気による影響が生じないよう対策を講じることとします。</u></p>